

入試まであと少し！直前の学習

茗溪塾塾長 長谷誠基

12月に入り中学受験では千葉県の第1志望入試や帰国生入試、大学入試の推薦型選抜などが行われ、合格の報告も聞かれるようになってきました。千葉県の第1志望入試の出願者を見ると、ほぼ昨年並みで入試の厳しさは変わらないように思えます。

受験生はこれから、冬期講習・正月特訓と進み、1月に入るとすぐに入試本番となっていきます。「もう時間がない。」とあせる気持ちが出てきますが、毎年受験生を見ているとこの時期から急激に伸びる生徒が必ず出てきます。そういう生徒たちがなぜ急に成績がアップしていくのかというと、「本質的な理解」が得られたときに「知識が本当の意味で使えるようになる＝応用が利くようになる」からだと思います。例えば算数や数学で今まで単に公式を覚えてそれに代入して解いていたとします。すると問題文や設定が少し変わると途端に解けなくなってしまうということが良くあります。これは、なぜその公式が出来ているのか？という「本質的な理解」ができていないために起こります。しかしなぜそうなるのか？が完全に理解できると、自分で問題を分解することができるようになり、今までできなかった応用の問題もできるようになっていきます。実は本当に頭のいい子は公式としては完全に頭に入っていないくても、考え方を理解していれば問題が解けてしまうものです。あの有名なアインシュタインも大学で講義をするときにはたびたび公式を忘れ、そのたびに調べに教授室に戻っていたそうですが、あるときから「そうか！ここで作ってしまえばいいんだ。」と気づき、それからは教授室に戻ることはなくなったそうです。アインシュタインのような天才まではいかなくとも「そういうことか！」と理解する体験がいくつできるか？がこれからの勉強のカギだと思います。

そうなるためには、志望校の過去問や模擬試験のやり直しも重要です。計算などの訓練も大事になってきます。過去問や模擬試験で志望校レベルの問題を解き、思考のレベルを維持すること。出来なかった分野の弱点補強を通してなぜそうなるのか？を理解すること。計算や暗記物で基礎固めをすること。これらがバランスよく組み込まれながら学習を続けていけるのが重要です。

現在行われているサッカーの世界カップでも、各国が4年間準備してきた集大成の場になっています。日本代表も下馬評を覆す大活躍を見せてくれました。受験勉強はここからが本当の勝負です。ここまで比較的予定通り来ている人も、そうでなく追い詰められている人も、最後まであきらめずに目標へ向かって走り続けましょう！